

愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel：997-2189 メール：airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp



熊本市在住の池田由美さんを怒和島に招き、島の環境や暮らし、海上交通の歴史などを説明。沖には好漁場の館場島を望む。

☆ 古いものを 活かして まちを 活性化する ☆

松山市企画政策課が、地域振興の一環で三月に実施を計画している人材養成講座。その講師に、熊本市で工務店を営む山野潤一さんをお招きしたいという話があります。山野さんは、古建築を改築し、そこに新たな命を吹き込む名人。熊本市内で四百店舗以上の改築を手掛けられています。ある地区では山野さんの作品が八十店余りひしめくところもあり、山野さんの人気のほどが伺えます。また山野さんは、若手事業者の育成にも力を注がれており、起業へのアドバイスや経営相談にも気軽に乗ってあげているそうです。

そんなカリスマ仕掛け人を松山市にご紹介いただいたのは、同じ熊本市に住む主婦の池田由美さん。ご主人の転勤で愛媛から熊本へと移り住まれた池田さんは、当時、三津浜のまちに魅せられ、松山近郊に居た数年間、古建築めぐりのために足繁く三津浜通いをします。さて、池田さんに三津浜を紹介したのは、誰あろう、古建築研究家として名高い犬伏武彦先生でした。犬伏先生に師事した池田さんは、先生の教えを忠実に守り、ただ建物を見るだけではなく、その建築物が建てられた経緯や当時の家族の暮らしぶりまでもを取材し、ついには出版物として古建築の写真集を出すに至ります。そのご縁で、三津浜の人々は、池田さんをまちおこしの旗印と称え、講演を依頼するまでになりました。そして、その池田さんが熊本で出会ったもう一人の師が山野さんだったのです。今回の講座を開催する目的は、まちを活性化するための人材を育成することにあります。決して忽那諸島を古建築改築でリニューアルしようということではありません。逆に、古くてもすばらしいものを見出し、島固有の宝として磨き直そうと考える、その着想を伝授してもらいたい、その力を山野さんと池田さんから頂戴できるのではないかといいことなのです。島外の人に島を見つめてもらい、自らは気づかなかった島のことを別の角度からご助言いただければと思います。

西瀬戸を巡る船旅に歴史ロマンを重ね合わせて…

忽那ロマン探訪クルージング



特別に操舵室を見学させていただき、順番に望遠鏡もろぞいて、まるで航海士か船長にでもなった気分です。宝島をめざして、いざ出航！

これまで松山離島振興協会が主催・共催したクルージングは計7回。8回目の催行となる今回は、昨年度に引き続きの忽那ロマン探訪がテーマ。でも、今回が過去のクルージングと違った点は、その行程にあります。これまでのクルージングは県境辺りまでは行くものの、決して県域を出ることはありませんでしたが、今回のコースではお向かいの広島県呉市を訪れ、上陸こそしませんが、呉市のボランティアガイドのみなさんをお乗せし、呉周辺のご案内もいただきました。

その後、広島・山口・愛媛の3県の県境を確認し、船は山口県の柱島をかすめて、津和地島へ、そして昼食。好評のしまめし弁当は2種。通常の千円の弁当に加え、今回は千五百円の上弁当もご用意。坊っちゃん島あわびの入った豪華版に、みなさん大満足のようでした。また、船内ではおみやげ品も上々の売れ行



き。みかんはもちろん、モイカの一夜干しやうにの瓶詰め、乾燥ひじき、てんぐさなど、島の特産品をふんだんにお買い求めいただきたいみなさんは、まさに島の応援団です。安全・安心の食材として忽那諸島の農水産物が多く、みなさんに愛されていることは、しまびとにとっても、大きな自信と誇りにつながっているのです。

そして船は、最終の目的地 釣島へ。灯台の島としておなじみの釣島では、松山市教育委員会 文化財課のみなさんや、まつやま文化財サポーターの会のみなさんが出迎えてくれ、旧官舎の説明などいただきました。

当日は天候にも恵まれ、暑くも寒くもない絶好のクルージング日和。船中では、忽那水軍の歴史や忽那諸島の民俗、海上交通の歩みと内海における島の役割など、海と島にまつわるさまざまな話に、みなさん熱心にうなずかれていました。



白亜の貴婦人に明かりが灯されると思わず感嘆の声が漏れました。



今回のクルージングも、石崎汽船・中島汽船両社の全面的なご協力の下で催行できたのですが、今後も引き続き、快適な船旅を両汽船会社とともにご提供していきたいと考えています。さて、松山離島振興協会ではすでに、来年度のクルージングの青写真を描いています。その中で、次回はずひ、山口県の周防大島を訪ねたいと思っています。周防大島は、以前、日本離島センターの交流事業で、忽那諸島と強いパイプができたところ。今も人的交流は続いています。また周防大島は、著名な民俗学者である宮本常一氏の出身地として知られており、日本を代表する作詞家 星野哲郎さんもこの島のご出身です。島の東端にある伊保田港からは、三津浜港へオレンジラインと呼ばれるフェリーが毎日就航しており、その名の通り、みかんつながらりの間柄なのです。島外の方のご参加はもとより、島のみなさんの参加も大歓迎ですので、みなさんも別の島の魅力を一緒に楽しんでみませんか。新たな発見がみなさんを待ち受けていることでしょう。

瀬戸内の豊かな未来を考えるシンポジウム IN大三島

『瀬戸内大しまはく』をかき語りも。

平成二十四年十月十一日、仮称「瀬戸内しま博覧会」の実施に向けた、その準備のためのシンポジウムが、今治市の大三島で開催されました。この大博覧会は、広島・愛媛の両県が、環・瀬戸内海の島々を舞台に開催を模索しているもので、忽那諸島にとっても、再び巡ってきた活性化のためのチャンスだと思っています。



会場からの声で、しまはくの経験を披露

後悔するよりも、やって自らが納得した方がはるかにいい。そんな思いをみんなに残したのが、かの「しまはく」でした。「大しまはく」。今度は忽那諸島だけではない、もっとたくさん島々がしのぎを削る催しとなるでしょう。ただ、私たちには経験値があります。経験値もありません。一日の長で得たその知恵と力をできる限り結集させて、他にはない、強みと面白味に変えていければいいのではないのでしょうか。中村知事の発案と思われるこの大イベントに、忽那のしまびとがぴったりと呼応できるよう、離島振興を唱える者として、働きかけてまいります。

ブログもいブクロで松心を売り込め! /アイランダー2012

毎年、東京 池袋のサンシャインシティで開催されている全国の島の祭典 アイランダーが11月24・25日に開催され、12,000人の人が訪れました。70ものブースが並んだ会場で、わが忽那諸島コーナーも大いにぎわいを見せ、恒例のみかんの詰め放題のほか、紅まどんなの試食には驚きと感動の声が寄せられました。中村市長からバトンを受け継いだ野志市長も常々、トップセールスの有効性を説いていますが、松山離島振興協会のトップである田中会長自らが陣頭指揮をとり、若者の街 池袋で忽那諸島の名をフェイス to フェイスで売り込めたことは、フェイスブックやブログにも勝る物売りの基本姿勢です。「♪うちのお袋が、ブクロで、買い物袋にみかん3袋、イエイ♪」とラップ調で歌いたくなるくらい、ゴキゲンな2日間でした。



絵ハガキみたいなマップが登場! /忽那諸島里島めぐり

松山離島振興協会ではこれまで、A4サイズで10島個別のイラストマップを作成し、各島の魅力をお伝えしてきましたが、当初の松山島博覧会から、現在では里島ツーリズムへと市の政策も発展的継承がなされていることを受け、今回、イラストマップのリニューアルに取り組みました。世の中のダウンサイジングの流れを汲み、マップのサイズは半分のA5サイズに。さらに持ち運びに便利な紙ケースを採用し、10枚セットのイラストマップが簡単に持ち歩けるようになりました。島大好き少年の忽那しまゆき、しまゆきの叔父で大学教授の河野しま二郎先生、しま二郎の教え子の媛野せとかお姉さんの3キャラクターが忽那諸島の里島めぐりを楽しくナビゲートします。興居島、釣島、野忽那島、睦月島、中島、怒和島、津和地島、二神島、安居島、鹿島の魅力を再発見できること請け合いです。



【地域産業部】

10月は、恒例となっている大街道での「みんなの生活展」への出展。兄弟分の北条ふわりとは背中合わせの店並びです。

一番人気は、もちろんみかんの詰め放題。さざえやあわびの鮮魚類や、モイカの一晩干しやワカメ、ひじきの加工品類は、島ならではの逸品。手作りのジャムやマーマレードも好評です。

毎月の道後 湯あがり朝市をベースに、声がかかればどこまでも、自慢の島の特産品をお届けしていきます。

《お問い合わせ・お申し込み》

事務局長 俊成雅直

TEL997-2189



【観光振興部】

里の島と書いて「りとう」と読ませる。「里島めぐり」も、ずいぶんと松山の人には定着してきたかと思います。

先のクルージングでもみなさんにお配りしたのですが、新たに「しまぼう」をデザインした里島めぐりのパンフレットもできており、体験メニューなどがたくさん紹介されています。

またそれに合わせ、Tシャツなどしまぼうグッズも販売されていますので、おみやげや記念にぜひいかがですか。

《お問い合わせ・お申し込み》

副部長 村上良二

TEL997-2038



【しまづくり部】

田中会長とともに、アイランダー2012に参加してきました。全国の島という島がブースを出し、その2日間は島ムード一色でしたが、とっても忙しくて、残念ながら、よそのブースをゆっくりと見て歩く余裕はありませんでした。でも資料で見ると、特産品販売だけでなく、観光宣伝から、IターンやUターンを促す定住促進対策まで、各島がそれぞれの生き残りをかけ、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきました。忽那諸島でも少しずつではありますが、島に移り住む人が出てきました。多くの人に、島を好きになってもらえるといいな。

《お問い合わせ・お申し込み》

副会長 古野真理子

TEL997-2193



バックナンバーはホームページでご覧になれます！

<http://island-matsuyama.com/>



☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆

☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆